

台湾における熱帯果樹類栽培の研修

著者	福留 紘二
雑誌名	鹿児島大学農学部農場技術調査報告書
巻	3
ページ	32-33
URL	http://hdl.handle.net/10232/9772

3. 研修報告

台湾における熱帯果樹類栽培の研修

福留 紘 二

結 言

最近では食生活の多様化につれ、温帯果実のほか、多くの熱帯、亜熱帯性果実類への志向が増えてきた。これまで指宿植物試験場では、多くの熱帯、亜熱帯果樹類を、主に施設で栽培を行っている。自然条件下での栽培を知ることにも研究上必要と思ひ、わが国に最も近い、台湾における熱帯果樹類の栽培状況と、それに関する資料を収集するために現地訪問、調査を行った。調査活動は附属農場主事、石畑清武教授とともに行った。

日程及び訪問地

- 1993年3月15日 鹿児島空港発 沖縄空港経由、台北国際空港へ。
入国手続き後、台中県沙鹿鎮へ。陳維舟氏と面会。台中泊
- 3月16日 台中駅発の列車自強號にて高雄市へ。
大社区の果樹類の苗木生産地訪問、調査。
- 3月17日 鳳山市熱帯園芸分所訪問。果樹、野菜調査。
高雄駅発列車呂公號にて嘉義市へ。
嘉義農業試験分所訪問、果樹調査。嘉義市泊。
- 3月18日 嘉義駅発呂光號にて台北へ。
台北市内見学。台北泊。
- 3月19日 台北市をタクシーにて出発、台北国際空港へ。
出発手続きを経て、空路、日本アジア航空にて沖縄国際空港へ。帰国手続きを経て、国内線114 J 便にて鹿児島空港へ19時頃帰宅。

調査結果

1962～65年の派米研修以来、久し振りの海外旅行であった。1993年3月15日、沖縄から約30分位で台北国際空港に着く。入国手続き後、タクシーにて、台中県へ向かう。夕方暗中を約2時間走り、沙鹿鎮の東昌産業有限公司、陳維舟氏宅へ着く。同氏と挨拶をかわし、台中港のレストランにて海鮮料理を食べる。

3月16日

台中市から高雄市へ。ホテルにチェックイン後、大社区の果樹類の苗木生産地を訪問調査し、グアバの接ぎ木苗を入手する。ホテルに帰り、露店市場を見て回り、マンゴスチン、レンブ等の調査をする。台中は3月といえども気温低く、寒さを感じた。

第1表 各地の月別平均気温

地名	Jan.	Feb.	Mar.	Apr.	May.	Jun.	July.	Aug.	Sept.	Oct.	Nov.	Dec.
台北	51.2	15.3	17.5	20.9	24.5	26.8	28.4	28.3	26.9	23.3	20.5	17.2
台中	15.8	15.8	18.4	22.1	25.3	26.9	27.8	27.5	26.5	23.9	20.7	17.4
鳳山	18.3	19.3	21.6	24.8	27.4	28.3	28.9	28.6	28.1	26.4	23.5	20.3
那霸	16.0	16.4	18.0	21.0	23.7	26.1	28.1	27.8	27.1	24.3	21.3	18.1
鹿児島	7.0	8.2	11.2	16.1	19.8	23.0	27.2	27.7	24.9	19.6	14.3	9.2

理科年表による。

3月17日

午前中、鳳山熱帯園芸試験分所（鳳山市）を訪問する。熱帯果樹系主任の陳敏祥博士に面会する。瑞々しくて甘いレンブをごちそうになった。所長の沈再發博士を表敬する。施設は台風などの風が強い所らしく頑丈に作られていた。施設の中は、ミニトマトの水耕栽培、デンドロビュームの木炭栽培、ネットメロンの水耕栽培が見られ、圃場ではマンゴーが花盛りであった。パパイヤをアブラムシから避けるための巨大な網室には驚いた。昼過ぎ、高雄市に別れを告げ次の目的地、嘉義市に向かう。15時に会う予定が17時前になり遅れて大変恐縮した。ここも農業試験所の分所で、研究員で農芸系主任陳一心博士にお目にかかる。技術者の巖新富氏の協力で世界中より導入された果樹類の植栽された圃場の案内をうける。念願のホワイトサポテの穂木を分譲していただいた。夕方暗くなり良く見られなかったが、熱帯果樹類の保存が良くされていると思った。再度調査してみたい所ではないだろうか。

3月18日

列車で嘉義から台北へ向かう。車窓から眺める景色はずっと雨ばかりで暗い感じだが、田植えをして間もない水田とグアバ圃や家鴨の飼育場が飛び込んでくる。やがて台北に到着、圓環の近くに宿をとる。夕暮れまで時間があって市内見物をした。中正紀念堂や書店、土産物屋を見て回った。

3月19日

早朝、台北のホテルをタクシーにて出発、台北国際空港へ。空港の外の植栽されている植物が大変美しかった。

第2表 入手した植物

No.	種類	品種	入手先
1	グアバ	甘世紀, 種無	高橋種苗場
2	ホワイトサポテ	4品種	嘉義農業試験分所
3	カンテンイタビ	1品種	々
4	<i>Clerodendrum</i> × <i>speciosum</i> Teijsm et Binn		

要 約

短期間の台湾調査旅行で、もう少し時間が欲しかったと思いますが、積み残しは、次の機会に譲ることとして、今回の旅行は、意義深いものがありました。また、反面、遺伝資源保護の問題や、新品種育成のことなど、今後の課題は大きなものがあると考えます。

今回の調査では東昌産業公有限公司、陳維舟氏に大変お世話になりました。ここに深謝の意を表します。